

元気づくりに文化芸術・読書・健康の力を

五十嵐 多喜子 議員

問 文化こそ日本をよみがえらせる力であると考え、日本は、長い歴史と世界に誇る文化を有しているから、振興策では遅れている。フランスに比べると予算は10分の1である。国の地位は文化芸術への力の入れ方で決まると言われている。しかし政府の行政刷新会議は多くの文化芸術予算を縮減・廃止すべきと判定。筑後市の総合計画に創造性を育むまちづくりとある。まちづくりや公共事業において文化芸術の視点をどう考えるか。



お話に引き込まれる子どもたち
(サンコア図書室「おはなしのじかん」)

市長 私の「ちっこを元気に」の趣旨はすべての市民がそれぞれの立場で、まちづくりに参加してもらう事だ。文化芸術の力を是非とり入れたい。

読書関連予算の拡充を

問 今年は国民読書年だ。子ども読書活動推進法をきっかけに着実に活動が根付いてきた。政府の事業仕分けでは、子どもの読書活動推進事業と子どもゆめ基金23億円が廃止と判定された。伸びかけた我が市の図書

市長 筑後市の平成22年度

予算編成は非常に厳しい。その中にあつても市の図書行政の水準を落とさないよう努力する。

健康づくりの推進と予防を

問 女性特有のがん検診事業において検診率をあげるため地域で努力する方策はあるか。

健康づくり課長 経済対策の一環であるがん検診推進事業。地域コミュニティの中で受診者を集めて検診車を回す方法もあるかと思う。

事業仕分けによる筑後市への影響

松竹 秀樹 議員

問 事業仕分けで、筑後市にどのような影響が考えられるか。

市長 仕分けにかかった事業は全体の1割程度であるが、その内27の事業において何らかの関連があるよう

でもあつた、筑後を元気にするために、市民の目線、市民の理解、市民の納得できる行政、また女性の目で見たい、女性の参加できる市政を実現するためには、どのように考えているのか。

市長 これからの難しい時代、市民と一緒に進めていく中で、市民の信頼を得ることが大事だと思うし、その信頼を得るためには市民に十分な説明をしていき、

理解をいただく努力をしていかなければいけないと思つている。また、市の行政の中にも女性の目で見たい、女性の意見を取り入れてやっけていくべきことも多々あるので、女性の市政への参画をぜひお願いしたい。



ちっこを元気にするぞ！

中村新市長に期待するもの

問 市長選のマニフェスト

農政課長 「強い農業づくり交付金」が3分の1に減額されることにより、生産組織等への大型農業機械導入の際に、事業が採択されにくくなる。